

# 令和3年度事業報告

## 1. 概要（理事長：窪田茂）

新型コロナウイルスの影響により、人が集まり飲食を共にすることが難しい状況が続いている中、協会は60周年を迎えました。各支部で開催された60周年記念イベントは着々と進んでおります。本部が主催する60周年記念事業も延期が続きましたが、パーティを伴わない形で令和4年3月に開催致します。このタイミングで発行される記念誌は60周年に相応しい立派なものとなり、協会の成り立ち、JCDデザインアワードの歴史から見るデザインの変容を感じられるものとなりました。

## 2. 各事業の報告

### (1) 事業部（部長：小坂 竜）

（副理事長：永井資久）

副理事長としての業務執行状況

- ・日本空間デザイン賞三役会議への参加
- ・空間デザイン機構、年鑑刊行委員会への参加
- ・新規正会員、賛助会員の勧誘

事業部長の補佐としての業務執行状況

- ・JAPANSHOP 2022 出展協力支援（シンポジウム委員会、賛助委員会）
- 「プロダクトオブザイヤー2021 受賞展示」「タカハシ・ツキイチ 30 人展」開催協力
- ・年鑑「2022 日本の空間デザイン」刊行業務（空間委員会）
- ・JCD 案内 2022 版パンフレットの改定（広報委員会）

（委員長会議議長：大滝道晴）

#### 1. [デザイン賞委員会]

- JCD 側の審査集計委員会の委員長として一次審査・二次・三次審査集計 会議等及び贈賞式に出席。

#### 2. [Soda 委員会]

- Soda 定例会議等に出席。
- サンプル模型作成。

#### 3. [賛助委員会]

- 第15回目の「プロダクトオブザイヤー2021」の実施を行う。
- \* それに伴う審査システムの新しい仕組み導入・実施を行う。

(正会員による一次審査、二次審査は特別審査員等を招聘して実施)

\*「サステナブル・プロダクト賞」の新設。

○『商店建築』、『日経デザイン』等のパブリシティ〜に掲載。

○受賞式の準備及び実施(2/18)東京デザインセンター クラフテックギャラリーにて実施。

\*盾、表彰状のデザイン・制作管理を行う。

○「プロダクトオブザイヤー2021」の『JAPAN SHOP』へのJCDブース(タカハシツキイチと合同)としての(3/1~3/4) 出展実施。

それらのサポートを行う。

4. [その他]

○その他各委員会は適時、ポイント時に会議等に参加しました。

#### ① デザイン賞委員会(委員長:笠原英里子)

「日本空間デザイン賞 2021」はコロナ禍の影響を大きく受け、応募総数は昨年より減少の887作品となった。昨年同様応募受付期間を1カ月延長して6月16日までとし、タイムスケジュール、審査方法(公開三次審査)、贈賞式等コロナ感染予防対策を最大限考慮した変更を行った。

応募期間締切り後、まず7月1日~10日までネットによる一次審査が行われた。90名の審査員が担当し、7月17日の調整会議を経てLong List303作品が選ばれた。その後7月23日~31日までネットの二次審査が行われ34名の審査員で選出、8月7日に調整会議が行われShort List114作品が選ばれた。

三次・最終審査会は事前ネット審査が9月8日~18日に行われ、9月25日に東京デザインセンターで公開審査が開催され、審査の様子はLIVE配信された。審査員は13名で五十嵐太郎、石橋勝利、小坂竜、齋藤精一、佐藤卓、千葉学、野老朝雄、豊口協、永山祐子、ペギー・ルイ、山本尚美、横川正紀、渡邊康太郎、(敬称略)そして審査委員長にJCD窪田茂理事長、審査副委員長にDSA鈴木重千代会長があたり審査の進行を務めた。この三次審査会において各カテゴリーの金賞、銀賞、銅賞そして非公開でKUKAN OF THE YEAR2作品が決定した。

11月12日東京デザインセンターにおいて贈賞式が行われ、金、銀、銅賞の贈賞、KUKAN OF THE YEARの発表を行い、引き続きKUKAN OF THE YEAR受賞者によるトークイベントを行った。

なお今年からサステナブル空間賞が設けられた。SDG'sで提唱する持続可能性への考慮がなされた作品を表彰した。

また日本空間デザイン賞はドイツのiF Design Awardとパートナーシップ契約を結び、日本空間デザイン賞のShort List以上はiF Design Awardのオンラインプレセクション審査が免除され、応募登録時でファイナリストとして認定される。iF Design Award

2022 から実行される。

2021 年 2 月 9～14 日の期間 GOOD DESIGN Marunouchi において「日本空間デザイン賞 2020 展」が開催され、KUKAN OF THE YEAR から銅賞までの作品展示、KUKAN OF THE YEAR 受賞者によるオンライントークイベントが行われた。

2021 年 3 月 9～12 日開催の JAPAN SHOP でも同様の受賞作品の展示を行った。

## ② Soda 委員会（委員長：新藤力）

コロナ禍にあつて活動もままなりません、6 月に委員有志による素材整理と傷んだワークショップセットの更新を行いました。ワークショップセットは軽量化し、LED 化により照度・色温度の無段階調光・調色が可能となりました。このことにより運搬の負担が軽減され、作品のライティングの選択肢が広がりました。現在、デモンストレーション用の模型の手入れを行っています。

ワークショップとしては次のような活動を行いました。

### 1. 東京ミッドタウン・キッズワークショップ

8/28(土)、29(日)の2日間、(財)日本デザイン振興会主催の「東京ミッドタウン・キッズワークショップ 2021」に参加。直前に緊急事態宣言が再度延長となりワークショップ実施の可否を急遽議論しましたが、主催者が実施の意向であることから実施を決断。以下の感染予防対策を徹底して当日に臨みました。

- ・名簿の作成。
- ・定員を8組/1日とし、2日間開催。
- ・保護者同伴を1名とする。
- ・参加講師はどちらか1日の参加とし、ワークショップ前の10日間会食禁止、および健康チェックシートを記載。
- ・作業テーブルを4組ずつ、それぞれ専用の出入り口を持つようにゾーニング。
- ・作業テーブルごとに消毒スプレーを設置し、素材を取りに行く前後、手指消毒を徹底。
- ・工具は共用しない。
- ・プレゼンテーションは1組ずつで実施。プロジェクターを使い自席着席で行う。

飛び入りの年長さんから5年生まで、11組が参加。「キャンセル待ちでしたが、参加できてホッとしています!!」と、昨年1年生で参加した子が今年も参加してくれました。お姉ちゃんと一緒に来た年長さんは、「私もつくる!!」とケーキ屋さんを制作。自分のスケッチ通りの仕上がりに大満足で、お姉ちゃんに負けずしっかりとプレゼンテーションしてくれました。今年は低学年の女の子が頑張ってくれました。

- ### 2. 11/20(土)、今年度は完全オンラインで開催された日本建築学会「子ども教育支援建築会議全体会議・シンポジウム」にて活動報告。コロナ以前の報告が多い中、コロナ禍においても工夫をしながら全国的な活動を継続していることが大変評価されました。

3. 11/26(金)、弘前大学教育学部附属中学校(1年生 126名対象)にて出前授業を実施(東北支部主催、本部から3名応援参加)。きっかけは、青森市立大野小学校でのワークショップの様子をTVニュースでご覧になった美術の先生からのオファー。フルバージョンでの中学生対象ワークショップは今回が初めてです。さすが中学生は目的やイメージをはっきり持って制作をしているように感じました。先生から「(生徒たちは)初めて“デザインすること”が美術の一つであるということに気づきました。」「本物の素材を自由に選べる環境に驚き、各教科の先生方が感動している姿を見ると、美術という教科を超えた“本質的な学び”を体験できたのではないかと思います。」との感想をいただきました。

12月には北海道支部が札幌市立桑園小学校(6年生 177名対象)にて出前授業を実施いたしました。今年度、出前授業は2008年の和田小学校から71校となり、対象の児童・生徒は6,872名となりました。そのほかタイアップ形式のワークショップも、2003年以来29回を開催し682名(保護者を含む)の参加者がございました。

そろそろ建築やデザインの仕事に就いている子たちがいるかもしれません。今後も全国での継続的な活動を目指したいと思います。

#### ③ シンポジウム委員会 (委員長：飯島直樹)

JCDデザインシンポジウム SECTION 62は、60の杉本貴志、61の内田繁に続く連続企画として、「クラマタを語る」を4回開催した。感染症下の開催であり、残念ながら全てオンラインでの実行となった。(リアル開催を目指し、田根剛の参加を予定した5回目は断念)2021年の4月、3回目はプロダクトデザインの視点での「クラマタを語る」であり、藤森泰司、倉本仁、寺田尚樹(ファシリテーター)が倉俣史朗の家具の成り立ちや時代背景を論じた。続く五月の4回目には、生クラマタを知る近藤康夫、中道淳、飯島直樹(ファシリテーター)が、倉俣デザインの生の奥行きとエピソードを手繰り寄せた。SECTION 62は計4回の連続トークセミナーとなりSNSでの視聴数もかなりの数となった。

JCD広報委員会で2018年から始めたトーク(番組のような)「タカハシツキイチ」も2020年からオンラインとなり、困難な開催の中2021年度には30回の開催を終えた(登壇者菅原大輔)。次年度の新たな場面への展開にあたり、SECTIONも含めJCDトーク事業全般の検討事業として、タカハシツキイチをシンポジウム委員会で所管することとした。

#### ④ 広報委員会 (委員長：水谷晶人)

- 1) JCD公式パンフレット2022を発行しました。
- 2) JCDウェブサイトの刷新の第1フェーズ完了しました。
- 3) JCDウェブサイトのコンテンツの見直しを図りペイビューを増やしました。
- 4) JCD公式SNSにてニュース記事、イベントの立ち上げを行う事で

JCD会員・JCD賛助会員、そして会員以外の方へも活動状況の発信の実施。

5) 東京デザインセンターの情報誌への記事の提供を行いました。

6) タカハシツキイチの運営及び情報発信。

⑤ 国際委員会（委員長：武石正宣）

相変わらずコロナ禍での国際委員会の活動は、オンラインに限られたものになりました。7月に行われた、台湾とのEGセミナー及びクロストークや、10月に行われたAPSDA総会に対する出席、12月から毎月開催されているAPSDAの理事会等の出席がありました。

⑥ 賛助委員会（委員長：羽隅斉明）

1. プロダクト・オブ・ザ・イヤー2021

【応募、審査】

第15回を迎え、賛助企業の新製品の発売時期を考慮し、応募や投票の時期を従来から変更しました。また小冊子からの正会員の投票を一次審査とし、審査結果から上位10製品を決定し、該当企業によるプレゼンテーションによる二次審査を、9月17日（金）に事務局とクラフテックギャラリーにて開催しました。

二次審査の審査員は窪田理事長をはじめ、小坂副理事長、折原理事、井上氏、日経デザイン編集長の花澤氏の計5名の方へ依頼しました。また特別賞なるサステナブル・プロダクト賞を新たに設け、折原理事推薦の製品から決定して頂きました。さらに審査の様様をリアルでWeb配信しブラッシュアップを図りました。

【結果】

応募数：57製品（過去最多）投票率44%

・グランプリ：(株)ワイ・エス・エム ナイトブック

・準グランプリ：四国化成(株) クレアデコール

：パナソニック(株)ライフソリューションズ社 バイオシャドー

・サステナブル・プロダクト賞：(株)マテリアルハウス 光フィルター

※日経デザイン12月号、商店建築1月号に掲載、紹介されました。

【表彰式】

2月18日（金）クラフテックギャラリーにて皆様のご協力のもと開催しました。

2. ジャパンショップ2022への出展

3月1日（火）～4日（金）開催のジャパンショップにJCDブース（東京ビックサイト東ホール）に出展しました。受賞4製品に加え一次審査通過製品7製品（1製品辞退）を展示、展示の見せ方もグランプリ製品など受賞4製品が一目でわかるように配置しプロダクト・オブ・ザ・イヤーの意味合いを意識しました。また今回はタカハシツキイチ30人展との合同ブースで、ステージでの製品紹介や対談も実施でき中身の濃い展示会出展

となりました。

⑦ 空間委員会（委員長：新宮和行）

1. JAPAN SHOP 2022 について

2022年3月1日（火）～4日（金）の4日間で無事開催されました。

「てらせ、ミライ。」と題し、テーマは「進化を生み出すデザインと技術」

また昨年につき「JCDプロダクトイヤー」入賞製品の展示を行いました。

2. 年鑑刊行について

『年鑑日本の空間デザイン 2022』は、JCD+DSA「空間デザイン賞」合同アワードとして、3度目の年鑑刊行となりました。

「SDGs時代に求められる空間とは」と題し、特別寄稿では山極壽一（霊長類学・人類学者）氏による「ゴリラから学ぶ『人間に関わる空間のあり方』」を掲載しました。

また受賞者15名に聞く「影響を受けた人・場所・本・体験」も掲載しました。

次年度『年鑑日本の空間デザイン 2023』の発刊について、昨年と今年については、コロナ禍の影響もあり越年での発刊となりましたが、2023年度版からは本来の12月発刊に戻す案で議論しております。

⑧ 交流委員会（委員長：折原美紀）

「世界の今を知ろう。大陸リレー」と称して世界で活躍する女性ゲストを迎えてのオンラインイベントを定期的に行う。第1回はロンドンから建築ジャーナリスト&コンサルタントの山下めぐみさん、第2回はNYから照明デザイナーの田中みちるさん、第3回は香港からアート&インテリアデザインコンサルタントの源波淳子さん、第4回はアムステルダムから建築家の根津幸子さん、第5回はストックホルムからテキスタイルデザイナーの森山茜さん、そして第6回はクアラルンプールからインテリアデザイナーの土屋馨子さんに登場いただきました。第5回目からは女子だけではなく、男性参加可能にし、性別関係なく情報交換できるようにしようと考えております。オンラインならでの価値を活かして続けていきたいと思っております。また他にも「JCD CYCLE」活動を立ち上げ、関東支部の交流メンバーと共にサステナブルデザインについて学びを得るため産業廃棄物中間処理工場の「ナカダイ」を見学。その後船場本社のショールームで、窪田理事長とナカダイの中台社長とともにトークイベントに参加しました。

⑨ 50周年記念事業実行委員会（委員長：大滝道晴）

JCD60周年記念事業のテーマは「SHINKA」（「進化」「深化」「新化」→デザインの「真価へ」）

○開催日時／令和4年3月18日（金） 開会 12:00～閉会 16:00（17:00 完全撤収）

○開催場所／ 東京・青山外苑前 青山GRANDO HOTEL内 3F[AOYAMA GRAND HALL]

180名程度で開催

\*受付開始 11:30～

1. 記念式典（無料）12:00～13:45

MC：折原美紀

- ①開会宣言（MC）
- ②主催者挨拶（窪田茂）
- ③実行委員長式典説明（大滝道晴）
- ④ご来賓紹介・挨拶（3名程度）（船曳氏、迫氏、鈴木氏）
- ⑤名誉会員挨拶（野村武彦）
- ⑥新しい事業部活動及び新支部のご紹介\*50周年以降（窪田茂）（ロゴマークが投影される。）
  - 日本空間デザイン賞●「タカハシツキイチ」●IDM・SKD・KU/KAN等
  - 北陸支部の復活・紹介\*北陸支部長紹介
  - 国土交通大臣表彰受賞者の紹介\*対象者8名（壇上に上がってもらい紹介）
- ⑦永年在籍者表彰（在籍25年以上）
  - \*対象者70名（68名）（代表一名：山田悦央 OR 加藤博正）
- ⑧特別功労賞表彰
  - \*対象：大光電機（株）申間社長（壇上表彰と一言）
- ⑨記念誌の説明（飯島直樹）
- ⑩閉会の辞（MC）

\*\*\*\*\*

15分休憩（コーヒー、ドリンク等あり）

\*\*\*\*\*

2. 記念講演（対談セミナー）（有料）14:00～16:00 MC 下村牧子

テーマ：（仮）「JCDアワード」から飛び立った二人『あの時～今～これから、、、』

- ①開始挨拶及びゲスト・モデレーターの紹介
  - 中村拓志 VS 谷尻誠（ゲストスピーカー）
  - 小坂竜（モデレーター）
- ②質疑応答（15分）
- ③記念講演終了挨拶（MC）
- ④閉会の辞（太細 通）

\*\*\*\*\*

名刺交換・雑談・記念撮影

17:00 完全撤収

\*\*\*\*\*

## (2) 支部統括部

(部長：永井資久)

・オンライン会議開催

小田支部長会議議長、各支部長の尽力により支部長会議、60周年関連事業も含め順調に推移。

(支部長会議議長<東日本>/関東支部長：小田秀樹)

JCD60周年記念事業のセミナーや展示会開催にあたり各支部のスケジュール調整や予算獲得・セミナー講師のスケジュール調整など、Zoom会議やアンケートなどを2000年10月から開始して、2021年の後期まで記念事業委員会の巡回部会や本部記念事業委員会と共同会議を開催して、各支部の60周年記念セミナーや展示会開催に寄与した。

### ①北海道支部（支部長：高橋 恵）

今年度の活動方針

「デザインの必要性和ネットワークの大切さをJCDの活動を通して広めていこう」

・会員を増やす、他団体との交流をリモート等を使用して増やす活動を積極的に行っていく

北海道支部総会

【概要】令和2年度活動及び収支報告、令和3年度活動計画、予算（案）承認など

【日程】令和3年4月27日 アトリエテンマ事務所にて

運営会議 Zoomにて

【日程】7月8日 ・ 9月27日

Zoomにて開催 デザインアワード、SODAの件打合せ

Soda 桑園小学校

【日程】11月18日（導入）、11月25日（模型製作）12月2日（プレゼン）

177人5クラス25グループ

コロナ禍の中ではありましたが一瞬終息していたので例年の通り3日間のプログラムをリアルで開催できました。

北海道支部デザインアワードパネル展・日本空間デザイン賞パネル展

【日程】2月25日～2月28日

地下歩行空間にて北海道デザインアワード・日本空間デザイン賞パネル展を開催

2月26日 JCD 60周年記念事業記念セミナー開催 Facebook LIVE 配信、YouTubeLIVE 配信

第一部 佐藤航さんのセミナー 未来コンビニその他の作品について

第二部 笠原さんと長谷川さんにモデレーターとなっていていただき 佐藤さんに質問を投げかけていただき未来コンビニの深い話をさせていただきました。

さらに笠原さんには KUKAN OF THE YEAR 受賞の裏話などを話をさせていただきました。

第三部 北海道支部デザインアワード 最優秀賞の街制作室の珍田さん、優秀賞を2作品受賞した中山真琴アーキテクトの中山さんお二人にそれぞれ作品の説明をしていただき、それに対して佐藤さんと笠原さんから講評、質問を頂きデザイン談義を4人でしていただきました。

各50分ずつの長いトークセッションでしたが、デザインの深い話やプロジェクトの裏の話なども聞けてとても良いトークセッションだったと思います。

コロナ禍で蔓延防止中でトークセッション後北海道支部のメンバーとお二人が懇親会で交流できなかったことが残念でした。

第6回目となる北海道支部デザインアワード2021は、今回27作品の応募があり、理事長の窪田さん、副理事長の小坂さん、理事の笠原さん、KUKAN OF THE YEARを受賞した佐藤さんに審査をお願いしました。

パネル展も今年は1日の通行量が7万人という地下歩行空間で行うことができたので多くの一般の方々も立止まり作品を見てくれていました。コロナ禍で開催もどのように行うか色々試行錯誤ありましたがでも開催できて本当によかったです。

## ②東北支部（支部長：大塚真司）

今期、夏以降の活動に関して積極的に準備を進めておりましたが、全国的なコロナ第五派の広がりにより、上半期全ての活動を延期または中止としましたが、秋以降タイミング良く、60周年記念事業と延期していたSoda出前授業を11月に開催する事が出来ました。

### 【事業報告】

#### ●2021年度運営委員会

【日程】4月1日 【場所】アルコア事務所 【参加人数】7名

【概要】JCD60周年支部記念事業の概略の協議（日程、場所、内容の検討）

#### ●東北支部役員・地区長会議

【日程】4月16日 【場所】アルコア事務所 【参加人数】7名

【概要】今期事業計画、60周年支部記念事業の日程の決定。

#### ●東北支部総会の実施

【日程】5月21日 【場所】仙台市内 リアル出席15名（うち正会員9名）

【概要】過半数の賛成により、第一号議案から六号議案まで全て可決されました。

#### ●東北支部役員・地区長会議

【日程】10月22日 【場所】アルコア事務所 【参加人数】7名

【概要】下半期活動計画 60周年支部記念事業の詳細決定

#### ●JCD60周年支部記念 東北支部「デザイントークセッション2021」開催

【日程】11月17日 【場所】エルパーク仙台 参加者76名

【概要】窪田理事長、折原理事をゲストに迎えトークセッションを開催

#### ●Soda出前授業

【日程】11月26日 【場所】青森県「弘前大学教育学部附属中学校」

【概要】1年生120名を対象に講師24名参加

#### ●東北支部役員・地区長会議

【日程】 3月10日 【場所】 アルコア事務所 【参加人数】 7名  
【概要】 今期決算報告及び来期事業計画

③関東支部（支部長：小田秀樹）

\*今期はJCD60周年事業の本部活動のサポートと支部委員会活動を充実させる。

■研究セミナー委員会（福田裕治委員長）

- 1)2021年は「とくトーク」はコロナ禍の為に開催を見送られた。
- 2)2022年3月にあの人は今「羽田良美氏」のとくトークをコロナ対策をして開催

■支部賛助委員会（品川正之委員長）

- 1)ほぼ月1回(4/5, 5/20, 6/2, 7/13, 8/11, 10/12, 3/22)の定例委員会を開催し、JCD正会員と賛助会員相互の向上のための意見交換を行った。
- 2)恒例の熱海船上花火見物&BBQ会を感染対策に留意し12月18日に真鶴で合同開催
- 3)とくトークと共催ノレンカイ(シュールーム見学+セミナー)を3月25日ダイナワンシュールームで開催した。
- 4)ノレンカイが立ち上げたユーチューブへの参加要請をメール配信した。
- 5)関東支部の他委員会へ賛助委員会の委員を推薦派遣した。
- 6)5月、6月、8月の定例は本部賛助委員会と協同開催して意見交換を行った。

■広報委員会（古川紳太委員長）

- 1)関東支部・機関誌を3刊発行。初回発刊(7月末予定が緊急事態宣言などで10月発刊)総会特集・プロダクトアワード・Soda活動・委員会報告・新会員紹介
- 2)2回目発刊(12月中旬発行)会員の近況・クラブ活動報告・新会員紹介・Soda活動・各委員会報告・賛助会員活動報告・会員募集
- 3)3回目発刊(3月中旬発行)とくトーク報告・新会員紹介・あのあるところ・クラブ活動

■メディア委員会（水谷晶人委員長）

- 1)JCD関東支部・HPの正会員情報と賛助会員情報の変更に伴う更新を速やかにおこなった。
- 2)JCD関東支部・HPに新規会員の作品画像をサイトトップに加えた。

■交流委員会（折原美紀委員長）

- 1)昨年に引き続き、コロナウイルス蔓延により、パーティーなどのリアル交流イベント会は出来なかったため、本部交流委員会「JCD CYCLE」にジョイントした活動を行った。SDG's・サステナブルの勉強会を関東支部・幹部委員と前橋市の産業廃棄物中間処理センターの「ナカダイ」を視察、後に船場シュールームで開催されたトークイベントに委員と共に参加した。
- 2)パーティーもなかなか開催できず、賀詞交歓会などの中止で集まることが難しい状態が続いてはいますが、60周年記念講演などの開催可能なイベントのサポートを行った。

■特別委員会（星明臣委員長）

- 1)政府によるコロナ禍の「緊急事態宣言」などの制限で、活動は自粛しました。

結果、研修旅行などの開催は出来ませんでした。

#### ④北陸支部（支部長：木村嘉秀）

##### 【所見】

相変わらず新型コロナウイルスに翻弄された1年で、企画した合同インターンが実施できなかつたりと残念なこともありましたが、2月5日の3団体合同空間デザインフォーラムは初の会場+配信のハイブリッドで行いました。配信を含めると過去最高の参加人数でした。コロナのおかげで思わぬ発信手法も経験でき、今後に繋げたいと思います。

また、北陸の大学の建築学科を対象にした合同インターンや「地域コミュニティ」をテーマにしたフォーラムなど、地域の課題にデザイン団体として何か貢献できないか？と言う活動が多少は一般の方にアピールできたと感じます。今後も少しでもJCDの知名度を上げていきたいと思っています。

##### 【令和3年度活動報告】

###### イベント等

###### 2021年

- 3月27日 空間デザインフォーラム2021開催 場所：金沢学生のまち市民交流館  
JCD・SDA・DSA 3団体合同フォーラム コロナ対策でオンライン配信にて開催  
小坂竜副理事長に登壇頂きました
- 4月22日 北陸支部総会開催 場所：富山県民会館4階会議室  
参加 正会員8名 賛助会員1名
- 8月8日 オンライントークイベント（地方でできるデザインの可能性）  
JCD正会員4名にて参加 JCD合同インターンの告知も兼ねて開催
- 9月6日～10日 5DAYS 建築・デザイン合同インターンシップ→コロナ感染対策のため  
10月11日～15日に延期→新学期が始まっているためキャンセル。  
当初は5名の学生より応募がありましたが、残念ながら中止としました。

###### 2022年

- 2月5日 空間デザインフォーラム2022開催 場所：マチノス 富山市総曲輪  
JCD・SDA・DSA 3団体にて 会場+配信のハイブリッド
- 3月26日 60周年シンポジウム「デザイングローバル」開催予定  
場所：マチノス 富山市総曲輪  
ゲスト 丹羽浩之氏 井上愛之氏 ホスト種昂哲氏 予定

###### 会議等

- 2月4日 委員長会議（リアル開催）
- 7月3日 JCD合同インターン実行会議（ZOOM利用）
- 8月27日 オンライン支部会議（ZOOM利用）

⑤中部支部（支部長：鳥居住則）

- 4月 CCD0 アワードに中部支部の西口会員が受賞  
贈賞式参加（加藤吉宏、不破淳二）
- 6月 支部会議（Zoom/8名）  
・60周年記念事業中部支部開催企画について
- 9月 支部会議（Zoom/7名）  
・60周年記念事業中部支部開催企画について  
1970年代代表建築家デザイナーとして吉柳満氏をパネラーとして招致決定  
・デザイントリプレックス18会議（Zoom出席/大藪、小関、尾西、鳥居）  
・中部商空間賞」学生部門のみ応募者募集準備
- 10月 支部会議（Zoom/7名）  
・60周年記念事業中部支部開催企画について  
1980年代から2020年代の代表建築家デザイナーパネラー候補について  
・「中部商空間賞」学生部門のみ応募者募集開始  
・CCD0第3回会議（Zoom出席/不破）
- 11月 支部会議（Zoom/8名）  
・60周年記念事業中部支部開催について  
本部理事会リアル出席（鳥居）
- 12月 忘年会開催中止
- 1月 支部会議（Zoom/7名）  
・60周年記念事業中部支部開催準備  
デザイントリプレックス18 JCD, DSA, SDA3 団体合同会議
- 2月 60周年記念事業中部支部開催（2月1日～2月7日）  
・「日本の空間デザイン賞」展示  
・「TALK SESSION 2022」（2月5日）  
・「中部商空間賞」学生部門展示（2月1日～2月7日）  
デザイントリプレックス18開催
- 3月 本部60周年記念事業開催参加予定  
・「日本の空間デザイン賞」展示  
・シンポジウム開催  
・支部会議（Zoom）予定

⑥関西支部（支部長：中村裕輔）

まだまだリアルイベントの開催が難しい中、リアル&リモートでの開催を前提に各種イベントを開催しました。また大阪デザイン団体連合（USD-0）における

他団体との連携により活動の範囲を拡げていきました。

■USD-0 大阪デザイン団体連合との取り組み

- ・USD-0 大阪デザイン団体連合を中心とした大阪万博への取り組み  
2 か月に一回の定例会へ参加

■関西支部・各委員会の合同委員会の実施

- ・毎月第一水曜日にリアル&リモートでの開催

■機関紙「JCD kansai」の発刊

5月21日 USD-0 主催「もの・空間デザイン学生フォーラム KANSAI」への参加

デザインレクチャー「デザインのプロに学ぶ、デザイン手法とこれからのデザイン」にて登壇 「業種業態とデザインの関連性」のプレゼン。

6月3日 関西支部集会 & 「コロナ禍での起死回生！」リモートイベントの開催

正会員の中小企業診断士・岡部氏によるプレゼンテーション

11月13日 デザイン新常态 & 関西学生シンポジウムへの参加

- ・各団体から審査員・コメンテーターを選出
- ・各デザイン団体（JID, DSA, パーステック協会, JCD）代表によるトークセッション

1月14日 大阪市商店会総連盟主催 第13回大阪市あきないグランプリ表彰式

- ・スイスホテルにてリアル授賞式を開催。 JCD 賞の表彰

1月28日「SDGs とデザインの行方 vol.1」リモートイベントの開催

(2025年と2030年とその先に)

- ・学生のプレゼンテーションと内容深堀のトークセッション
- ・賛助会員からの市場動向とSDGsへの取り組み

会場参加 16名 ON-LINE 参加 24名

⑦中国支部（支部長：藤坂浩匡）

令和3年度の中国支部は昨年度と同じ「デザインの追求と若手会員の増強・支部内の活性化」を活動方針としました。コロナ禍2年目でまだまだ活動制限がある中ではありましたが、リアルとZOOMを活用しながら活動が出来ました。また、恒例行事でもあります「広島デザインデイズ」を「JCD 中国支部デザインデイズ IN 広島」と名称を替え、開催会場を毎年検討できるようにしました。12月初旬はコロナの影響が比較的少ない時期で「JCD60th」と併用して本部より3名の方に来て頂き無事開催する事が出来ました。中国地方においてJCDのブランド発信が出来たと思います。また2年ぶりに研修旅行も開催し懇親会が来ていない状況下でもしっかりと交流・懇親が出来ました。「若手正会員の増強」については、正会員は2名と少なかったですが支部賛助会員の増強は成果があったと思います。次年度も支部内の結束とJCDブランド発信をしっかりとしていきたいと思っています。

令和3年度事業内容

- 組織改革・正会員の増強（2名）・支部賛助会員の増強（8社）
- 例会活動

- 令和3年4月16日(岡山)参加者:正会員9名、賛助会員9名 (リアル&ZOOM)  
ミニセミナー:デュラビット(ZOOM)
- 令和3年6月25日(福山)参加者:正会員10名、賛助会員9名 (リアル&ZOOM)  
ミニセミナー:(株)アダル
- 令和3年8月20日(広島・岡山)参加者:正会員7名、賛助会員10名 (ZOOM)  
ミニセミナー:(株)ミュー
- 令和3年10月15日(岡山)参加者:正会員9名、賛助会員8名オブ1名  
(リアル&ZOOM)、ミニセミナー:なし
- 令和3年12月17日(福山)参加者:正会員7名、賛助会員14名(リアル)  
ミニセミナー:株式会社ヤマシタ
- 令和4年2月25日(広島・岡山)参加者:正会員9名、賛助会員13名(ZOOM)  
ミニセミナーなし

●地域活動

令和3年12月4~5日 「第16回JCD中国支部デザインデイズIN広島」を開催  
本年度はJCD60th記念として本部からゲストとして小坂竜氏・折原美紀氏・武石正宜氏  
をお招きして「STYLEと空気感の創り方!-なぜそのカタチ・その光」と題して基調講演  
を開催しました。内容の濃い素晴らしい講演となりました。(参加者47名)また、学生デ  
ザインリーグ・Campsコンペ・JCD中国支部空間デザイン賞の審査にも参加して頂き、参  
加した支部会員・学生に刺激と気づきを与えて頂きました。(2日間の参加者のべ92名)

●JCD中国支部デザイン研修「隈研吾の原点をめぐる旅」

令和3年11月6~7日 高知県高岡郡梶原村~牧野植物園・牧野富太郎記念館  
参加者:正会員8名、賛助会員3名

⑧四国支部(支部長:日下大祐)

今年度は前年度同様時勢により計画していたイベントを含めて活動がほぼ中止になり、来  
期に延期した60周年記念事業を主に4団体(JCD、SDA、JIA、香川県デザイン協  
会)合同イベントSHIKOKUデザインフュージョン合同にて計画し他団体、業界とのリモート  
を活用しての委員会等にて交流し新しい会の有り方ができたような気がします。

5月、支部例会 中止

定時総会リモート出席

6月、支部例会委員長会中止

8月、支部委員長会 お茶会開催

60周年記念事業委員長会

9月、支部例会中止

11月、支部例会中止

SHIKOKUデザインフュージョン実行委員会参加

12月、支部例会 開催

60周年記念事業委員長会

SHIKOKUデザインフュージョン実行委員会参加

1 月、支部委員長会延期

SHIKOKU デザインフュージョン実行委員会参加

2 月、SHIKOKU デザインフュージョン実行委員会参加

まん延防止措置状況にて委員長会予定

3 月、支部委員長会開催予定

SHIKOKU デザインフュージョン実行委員会参加

4 月 支部例会予定

SHIKOKU デザインフュージョン開催予定

#### ⑨九州支部（支部長：深町俊彦）

##### (1) 業務委員会

○月例会の開催（毎月第三金曜日/大光電機会議室 or ZOOM 使用）

コロナ禍の中、毎月開催の月例会ですが、例年通り賛助会員にも参加いただき、ZOOM にて開催しました。

運営会議の冒頭に商品 PR や企業セミナーなどを行いました。

何度かはリアルにて開催を試みましたが、例年終了後に懇親会を行います、自粛しました。

○60th・事業 12/17(金)・福岡市美術館ミュージアムホール

JCD60 周年記念トークセッション・from 九州

(ゲスト・小坂副理事長・折原交流委員長)

○SODA 活動の開催

コロナ禍の中、開催はできませんでした。

九州支部は NPO 法人 FDL(福岡市を中心とした、デザインを活用した地域振興を主とした目的とした各デザイン団体、個人で構成)で開催しているデザインスクールキャラバンの今後の取り組み等の協議継続中です。

○FUKUOKA デザインリーグ運営会議の参加

FUKUOKA デザインリーグの団体会員として運営会議に参加し、これからの取り組みや今後のあり方などについて意見交換をしました。

リーグも法人化をして14年となり、JCD との今後の関わり方など支部内で検討中です。

○日本空間デザイン賞・パネル展

福岡市美術館にて開催しました。2021.12.13(火)～12.19(日)

日本空間デザイン賞と日本サインデザイン賞の共同開催として行いました。

DSA と調整後、SDA との共同開催で九州の3団体での開催でした。

##### (2) 交流委員会

○各種セミナー参加

賛助会員の各種イベントやセミナー（主に ZOOM 開催）に参加しました。

### ○忘年会・新年会の開催

コロナ禍により全て中止となりました。

JCD60周年記念トークセッション終了後に打ち上げ懇親会を行いました。

### (3)広報委員会

○支部ホームページやFacebook・Instagramを運営しています。

ホームページやFacebook・Instagramを活用しJCDの知名度拡大や会員増強のためにも、SNS発信を積極的に行っていますが、まだまだ運営方法など模索中です。

### <総評>

本年度はJCD60周年記念トークセッション・from九州を開催することによる60周年記念事業の取り組みの協議を行って、九州らしさを皆で共有していくことができました。

支部独自のsodaの取り組みのデザインスクールキャラバンは2021年より中止しています。支部ならではの手法で、児童との関わりや学校及び社会との繋がりを持つ取組として、早期の再開を目指し模索中ですが、コロナ禍が2年にも及び新たな取り組みのアプローチが難しい一年となりました。

その他の交流活動は毎月、例会のZOOM開催が定例化してきましたので、参加者も増やし、良いコミュニティの場なるように、今後も継続して行いたいと思います。

広報活動のSNS運営などは、まだまだ検討改善部分が沢山あり、今後も進化していける様に取り組みます。

また、JCD-kyushuのフェイスブックのページの充実を図っていきます。

しかし、本年もコロナ禍の中で、正会員・賛助会員の連携、コミュニケーションを図ることに苦慮した一年でした。

会員数は思う様に増えていませんが、60周年記念事業の取り組みの協議を行った事により、九州らしさを皆で共有していく流れが出来つつあるように思われます。

コロナ禍の中で、正会員・賛助会員の連携、コミュニケーションを図ることに苦慮した一年でしたが、毎月の協議会の参加者は確実に増えていきますので、会員数は思う様に増えていませんが、今後に期待をし、会員数をふやす取組みにも力を入れていきます。

### ⑩沖縄支部（支部長：山里健市）

R3年

5月 ◇支部定例会の開催。

◇インテリア産業協会主催の懇親会 → 中止。

◇定例理事会・定時総会 → ZOOM参加。

6月 ◇支部定例会の開催 各委員会報告

◇JCD OKINAWA 空間デザイン賞2021委員会kick off Mtg

8月 ◇「JCD CREATERS BEACH BBQ 2021」 → 中止。

- 9月 ◇支部定例会の開催 各委員会報告
- 11月 ◇JCD OKINAWA 空間デザイン賞 2021 贈賞式・60周年事業「トークイベント」を  
県立博物館美術館で無事開催。 商空間 46・住空間 29・プロダクト 3 合  
計 78 作品の応募があり  
その中から 大賞・金賞・銀賞・入選で 20 作品を選出・展示しました。建築  
家協会沖縄支部、沖縄県建築士会からも審査員に加わって頂き 本部から、窪  
田理事長、小坂副理事長、武石理事、東会員、鈴木会員、計 7 名に審査して  
頂きました。贈賞式後、トークイベントを開催し約 80 名の方が来場、その後  
は受賞者との交流イベントとして食事会を開催。中々 接点のないメンバーで  
の交流はとても有意義な時間となりました。
- ◇支部長会議・定例理事会へ出席。
- 12月 ◇支部定例会の開催  
◇懇親会の開催
- 2月 ◇支部定例会の開催
- 3月 ◇定例理事会

《総 評》

今年度もコロナの影響で 中々思い通りにならない一年となりましたが、JCD 沖縄 空間  
デザイン賞+トークイベントだけは是非成功させようと デザイン賞委員会で準備を  
してきました。今回は県外のデザイン事務所や初応募の設計事務所等、応募者の幅も  
広がり、次回開催へ期待をもてる内容で終える事ができました。受賞者との懇親会  
では 正会員の獲得にも繋がりそうです。

SODA 活動については、今年も小学校へのアプローチは行えず 昨年開催した高校生への  
SODA も開催依頼は頂けませんでした。

(3) 総務部 (部長：太細 通)

①財務委員会 (委員長：太細 通)

今年度の事業活動収入合計は、昨年度に比べ会費収入では正会員が約 24 万円、約 1.5%  
の増収、賛助会員は全国、支部あわせて約 154 万円、約 10.9%の増収、合わせた会費収  
入は約 178 万円、約 5.9%の増収となりました。また事業収入は、設計奨励事業の DSA と  
統合しました 3 回目の日本空間デザイン賞の応募料が、昨年度より 11.4%減収となつた  
ほか、コロナ禍でも工夫を凝らし Japan Shop に展示した賛助企業の参加料等の企業奨  
励事業収入が昨年度より 306 万増収、60 周年記念事業の賛助企業の協賛や記念講演会参  
加料が、予算よりは 56%と大幅な減収でしたが 268 万円の収入を得ました。他の事業と  
の合計での事業収入は約 419 万円、約 28.2%の増収になりました。またコロナ禍の給付  
金等で雑収入が約 139 万円あり、事業活動収入は全合計で 5,235 万円と昨年度から約 399

万円、約 8.2%の増、予算に対しては 8.1%減に抑えることができました。

事業活動支出合計の事業費支出では、60 周年記念事業費が記念祝賀会を中止して予算より約 23%減の 948 万円、3 回目の日本空間デザイン賞の設計奨励費は昨年度より約 4.6%減の 843 万円、企業奨励費は今年度は JapanShop2022 へのプロダクトオブザイヤーの展示造作費用等で 286 万円、広報費は web サイトの一新をはかり計 276 万円、他の事業も大幅にオンライン活用等で簡素化をはかり、事業費合計は 3,567 万円、昨年度より約 61%増でした。また管理費支出では、昨年度同様に理事会等オンライン活用により旅費交通費が大幅に減になり、計 1,285 万円、昨年度より約 12%増に抑えることができました。結果事業費と管理費を合わせた事業活動支出合計は昨年度決算額より 1,489 万円、約 44%増、予算に対しては 1,090 万円、約 18.3%減の 4,852 万円となりました。

以上より、収支差額は前年度決算額より約 1,091 万円減、予算よりは 626 万円増の約 382 万円の黒字を確保できました。昨年度より大幅に収支差額が減じたのは、予算の収支差損 621 万円と若干増の実額 680 万円の収支差損のあった 60 周年記念事業の実施が約 62%を占めます。

本部及び 10 支部を個別にみますと、本部と 7 支部は黒字を確保できました。北海道支部約 6.8 万円、中部支部約 7.8 万円、中国支部約 2.8 万円と若干の赤字になりましたが、各支部とも繰越収支差額で十分カバーできています。本部、10 支部とも次期繰越収支差額に余裕がありますので、本協会の社会的地位の向上や会員獲得に役立つ活動への活用をよろしくお願いいたします。

一般社団法人への移行 9 年度目でしたが、60 周年記念事業を実施し大いに JCD の社会的地位の向上に役立ったと思いますし、その上での黒字と良い結果となりました。

## ②功労者選考委員会（委員長：星 明臣）

各支部長等より、功労賞候補会員の推薦を受け、メール等で委員間の意見交換・検討を重ね、以下の候補会員を令和 3 年度第 1 回臨時理事会に推挙し、承認されました。

1) JCD 特別功労賞候補者は該当なし

2) 支部功労賞

香川 眞二正会員（四国支部）

## 建設事業関係功労者表彰（「国交省大臣表彰」と略）

昨年度は、笠原 英里子会員（理事/デザイン賞委員長）が大臣表彰の栄に浴しました。

令和 4 年度は、大塚 真司会員（理事/東北支部長）を推挙・申請しております。

「国交省大臣表彰」については、候補者申請を継続していきます。

### 3. その他会務に関する事項

#### (1) 会務などの状況

##### 総会 (1回)

##### 令和3年度定時総会

期日：令和3年5月29日 会場：東京デザインセンター5F JCD事務局

社員出席：265 (内委任状 55、議決権行使 204) 名

##### 理事会 (3回)

第1回定例理事会 期日：令和3年5月29日 会場：東京デザインセンター5F

出席理事：23名

第2回定例理事会 期日：令和3年11月13日 会場：東京デザインセンター5F

出席理事：23名

第1回臨時理事会 期日：令和4年3月17日 会場：東京デザインセンター8F

出席理事：23名

#### (2) 関係団体や機関との交流、事業への協賛など

空間デザイン機構 ((公社) 日本サインデザイン協会、(一社) 日本空間デザイン協会、(一社) 日本ディスプレイ業団体連合会と共同) において、活動に担当を派遣した。また、日本インテリアデザイナー協会「World Interior Week 2021 in Japan」、商業施設技術団体連合会「第19回主張する「みせ」学生デザインコンペ」、日本サインデザイン協会「第56回日本サインデザイン賞」、Merci Media「SKY DESIGN AWARD 2022」、メッセフランクフルトジャパン「インテリアライフスタイルリビング2021」、BC ウッド「カナダ世界リゾート地の舞台裏 part. III」、京都市北区役所「京都から木の文化を考えるシンポジウム」、関西インテリアプランナー協会「第4回デザインコンペティション2021 ビエンナーレ」、ビジネスガイド社「第93回東京インターナショナル・ギフトショー春2022」、「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2022 第11回 LAIFEDESIGN」等への後援や、日本経済新聞社「JAPAN SHOP 2022」「ケンチク・建材展2022」、日本能率協会「Japan Home & Building Show 2022」、ライティングオブジェ2021等への協賛を行った。

### 4. 会員の移動状況

	令和2年度期末	年度内増	年度内減	令和3年度期末
正会員	429名	28名	22名	435名
賛助会員	208社	20社	17社	211社
名誉会員	8名	1名	0名	9名

## 5. 正会員の資格喪失に関する事項

定款第9条（資格の喪失）による、本年度の正会員資格喪失者は次の22名である。

・退会申し出による者 16名

（東北支部） 日下 茂、佐藤洋行、色摩 茂

（関東支部） エルメンドルフ久美子、緒方啓作、佐々木靖浩、名取俊晴、橋本 栄、  
樋口正司、朴 仁沢

（中部支部） 柴田達志

（関西支部） 中塚重樹、野村 充、山田常寿

（九州支部） 永田文隆、山口景三

・死亡による者 2名

（関東支部） 泉 幸辰、橋本夕紀夫

・会費未納による者 4名

（関東支部） 服部信彦、林由紀栄、村上秀一

（沖縄支部） 松本 司

注：昨年度（令和3年度）総会資料 p18 にありました、

5. 正会員の資格喪失に関する事項の会費未納による者 3名 のうち

（関東支部） 笠井三笠

については、海外出張により会費請求書を受け取れていなかったことが判明し、その後本人から退会の申し出と未納会費の納入がありましたので、「会費未納による者」を取消、「退会申し出による者」といたしました。